



鹿児島大学
FD委員会

今の自分自身を
少し変えるために、
これからちょっとだけ
積極的に毎日の過ごし方を
変えてみませんか。

FDガイド特別号

鹿児島大学共通教育における学習実態調査

【記入方法】 調査の趣旨については、巻頭をご覧ください。
【注】 欄に回答の方法は、図例を参照してください。

第1 欄位：以下の各欄位について該当する学習実態を「○」で記入してください。

1. 授業外の学習時間	2. 授業中の学習態度	3. 授業中の学習成果	4. 授業中の学習意欲	5. 授業中の学習態度	6. 授業中の学習成果	7. 授業中の学習意欲	8. 授業中の学習態度	9. 授業中の学習成果	10. 授業中の学習意欲
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

第2 欄位：以下の各欄位について該当する学習実態を「○」で記入してください。

11. 授業外の学習時間	12. 授業中の学習態度	13. 授業中の学習成果	14. 授業中の学習意欲	15. 授業中の学習態度	16. 授業中の学習成果	17. 授業中の学習意欲	18. 授業中の学習態度	19. 授業中の学習成果	20. 授業中の学習意欲
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

2012

鹿児島大学共通教育における 学習実態・学習成果に関する調査 2012年度調査報告

〈2013年12月発行〉



KAGOSHIMA UNIVERSITY
Faculty Development



鹿児島大学共通教育における 学習実態・学習成果に関する調査 2012年度

【本調査の目的】

今回の調査は、以下の二点についての的確に状況を把握し、本学の教育改善に資することを目的として企画された。

第一に、共通教育科目等を受講する学生の実態の把握である。授業においてより高い教育効果をあげるためには、学生の基礎知識がどのようなものか、どのような学習ニーズをもっているのかを把握しておく必要がある。それらが分かって初めて、効果的な教育改善の方法を考えることができるのである。

第二に、これまで本学が行ってきた様々な改革や教育改善活動の適切性である。本学では共通教育科目等について、科目の新規開設や整理をはじめとして様々な改善を加えてきた。そうした改善の成果が適切に現れているかを検証するということである。

本調査の結果は、共通教育科目等として開講される個々の授業の改善だけでなく、カリキュラムや教育環境の整備に向けた貴重なデータともなる。同時に本調査の結果は、専門教育の改善にも活かされるものである。専門教育の中心はほとんどの学部で2年次後期以降にある。そのため、2年次前期までの学習を終えた学生の実態を把握することにより、より適切な専門教育を行うことが可能になる。

【調査概要】

調査実施者:2012年度鹿児島大学全学FD委員会

調査テーマ:鹿児島大学の学生の学習実態や成果及びそれらに対する意識

調査方法:授業時の質問紙による自記式調査

調査時期:2012年12月～2013年1月

調査項目:日頃の行動・習慣・考え/共通教育科目等の授業における学習の仕方/

共通教育において入学時点と比べて変化したこと/鹿児島大学に対する思い など

【調査対象者】

学 部	有効回答者数/2年生(H23年度入学)	有効回答率
法 文 学 部	318/409	77.8%
教 育 学 部	188/291	64.6%
理 学 部	130/199	65.3%
医 学 部	192/255	75.3%
歯 学 部	44/57	77.2%
工 学 部	352/537	65.5%
農 学 部	107/243	44.0%
水 産 学 部	100/143	69.9%
合 計	1431/2134	67.1%

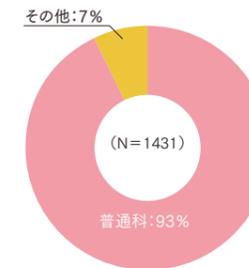
注)各項目の内訳の総和が回答者数より少ない分は当該項目への未記入者を示している。

問 1

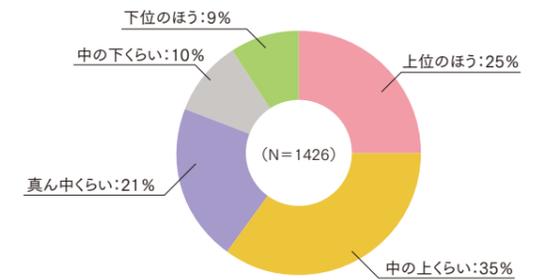
基本事項

(表中のNは有効回答数を表す)

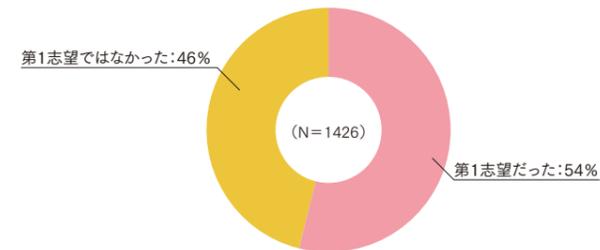
出身高校の種類



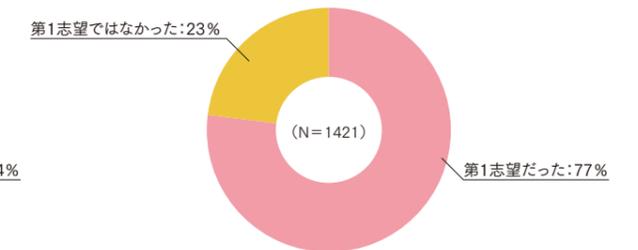
高校での成績



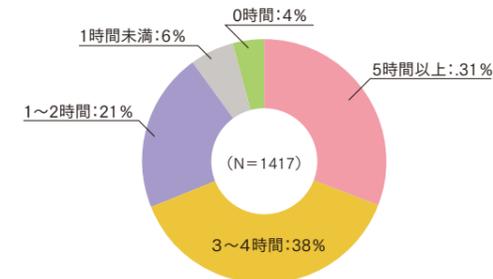
鹿大への入学



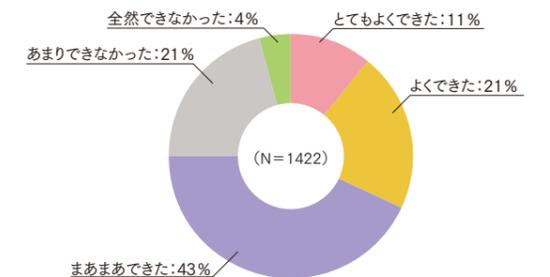
現在の所属学部・学科への入学



入学前の1日学習時間



鹿大入試のでき具合



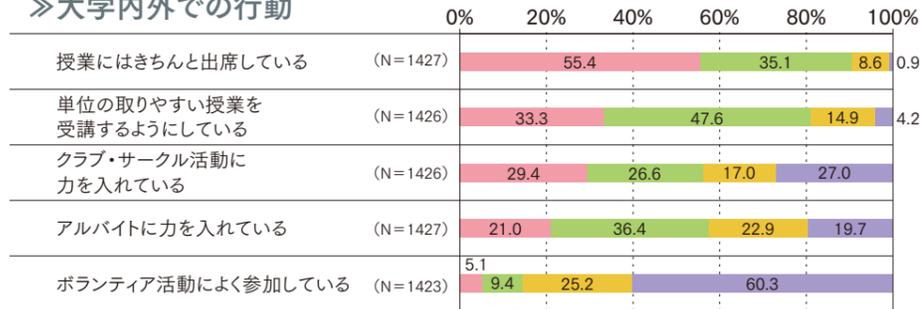
2010年、2011年調査とほぼ同様の傾向として、平均的に高校時の成績は「中の上くらい」以上が過半数を超えている。入学前の一日の学習時間も3時間以上が69%を示しているが、学習時間が1時間未満の学生も10%いることがうかがえる。入学動機では「鹿大が第1志望」は54%、そうでないが46%となっているが、現在の所属学部・学科への第1志望入学は77%と学部・学科を優先して入学してきた学生が多い。

問2

日頃の行動・習慣・考え

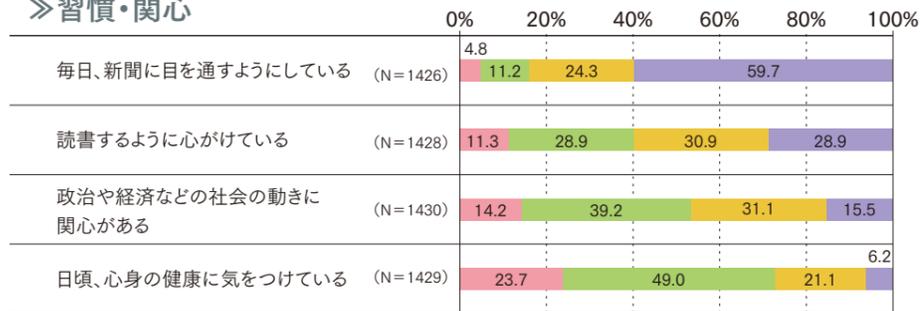


≫大学内外での行動



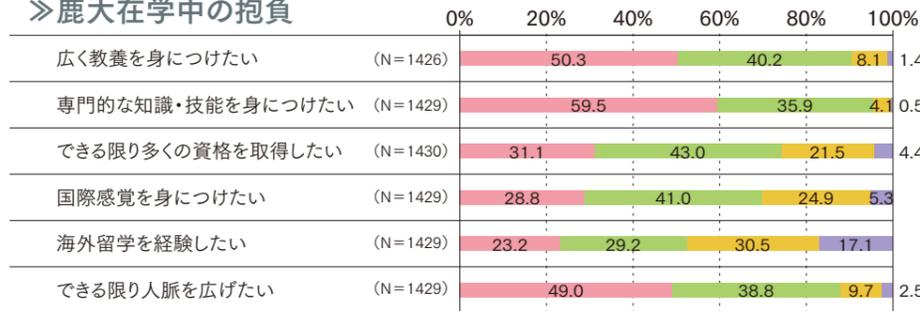
授業にきちんと出席しているかという設問に「あてはまる」(「とても」と「少し」含め)と答えた学生の割合は90.5%で、授業にまじめに出席していることがわかる。ただし、単位が取りやすい授業を選ぶ傾向が見られる。クラブ・サークル活動への参加は56.0%が積極的。ボランティア活動への参加は相変わらず15%程度であった。

≫習慣・関心



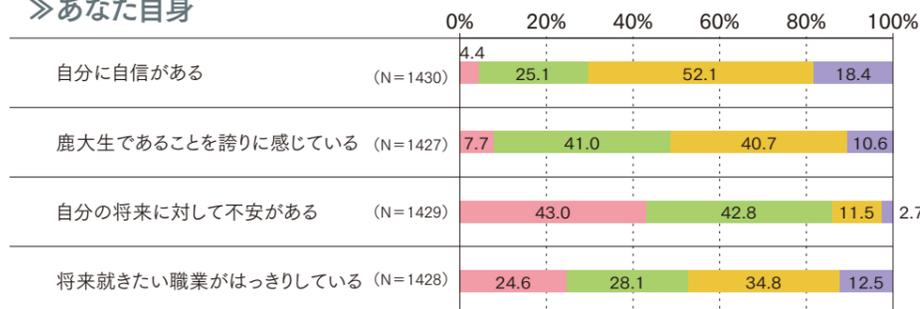
「健康に気をつけている」とする学生は72.7%で、学生の健康志向は強い。「社会への関心」は積極・消極がほぼ半分に分かれている。「読書する」学生は40.2%だが、「新聞を読む」学生は16.0%しかいない。

≫鹿大在学中の抱負



海外留学を経験したいと考える学生、国際感覚を身につけたいと考えている学生はそれぞれ52.4%、69.8%と半数を超えている。教養や専門的知識・技能を積極的に身につけたいと考えている学生が圧倒的に多い。一方、資格を取得したいと考える学生も74.1%と多く、就職などを見据えた「実学思考」が見られる。

≫あなた自身



特徴的な傾向は、85%を超える学生が将来に対して不安をもってのことである。就職難等の社会的な事情が反映していると思われる。自分の将来つきたい職業がまだはっきりと見据えられていない傾向もうかがえる。将来の不安と関係しているのか、自分に自信がもてない学生も70%程度いることがわかる。

問3

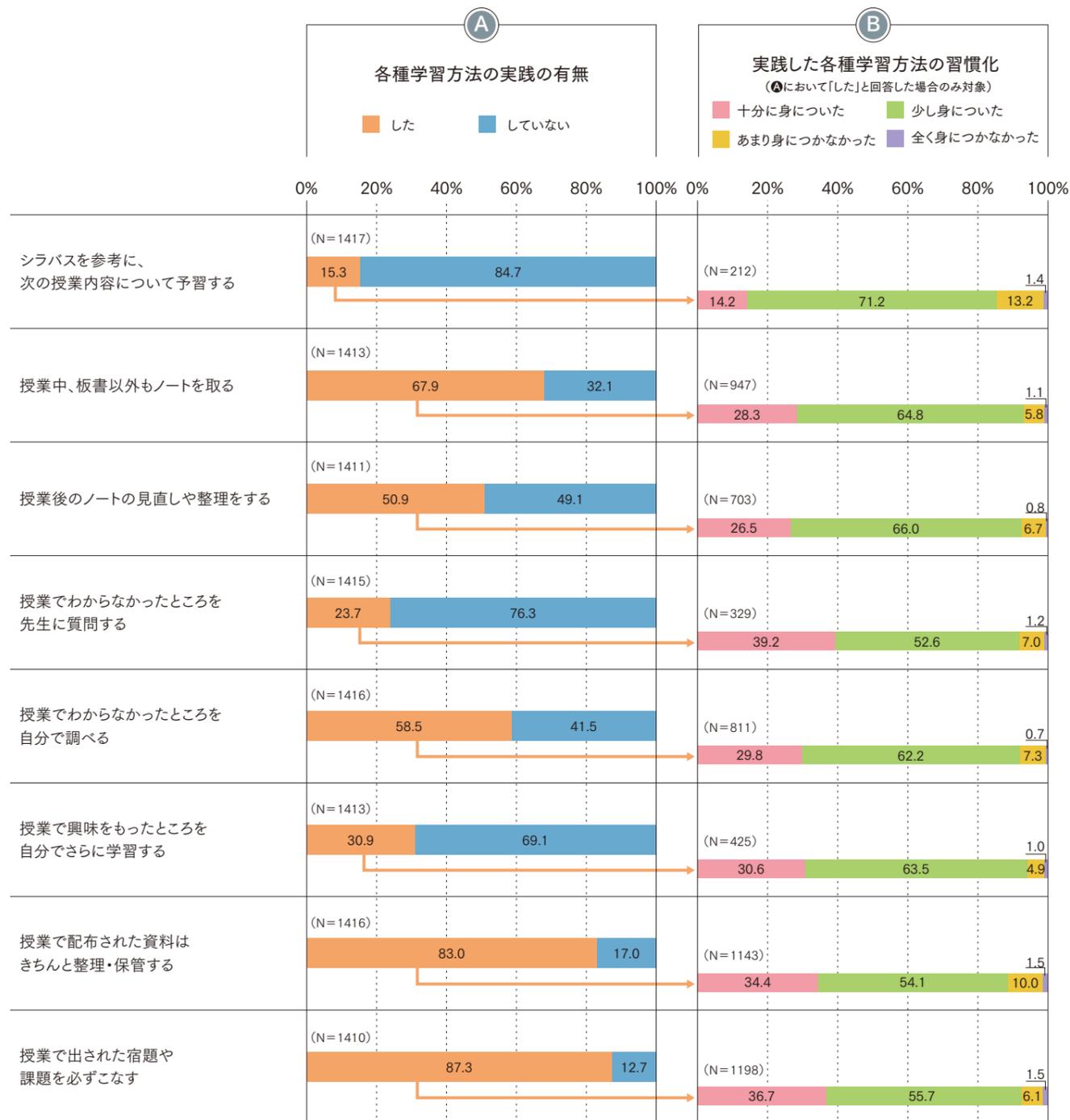
共通教育科目等の受講状況及び予習・復習の時間



教養科目の予習・復習時間が1時間未満とする学生の割合は80.7%と依然として高く、まったく予習・復習しない学生が30.6%いる。反対に外国語科目は授業で当てられることがあるせいか、まったく予習・復習しない学生は英語が8.7%、第2外国語が12.0%と少なく、1時間以上2時間未満の学生が42.7%、38.4%、毎日2時間以上勉強している学生も英語で7.7%、第2外国語で10.6%いる。基礎教育科目では実験等レポート作成の課題があるせいか、毎日1時間以上学習する学生が教養科目に比べて多いが、それでもまったく予習・復習しないとする学生は20.8%存在する。すべての科目でまったく予習・復習しない学生の割合が相当数いることは注目を要する。

問4

共通教育科目等の授業における学習の仕方

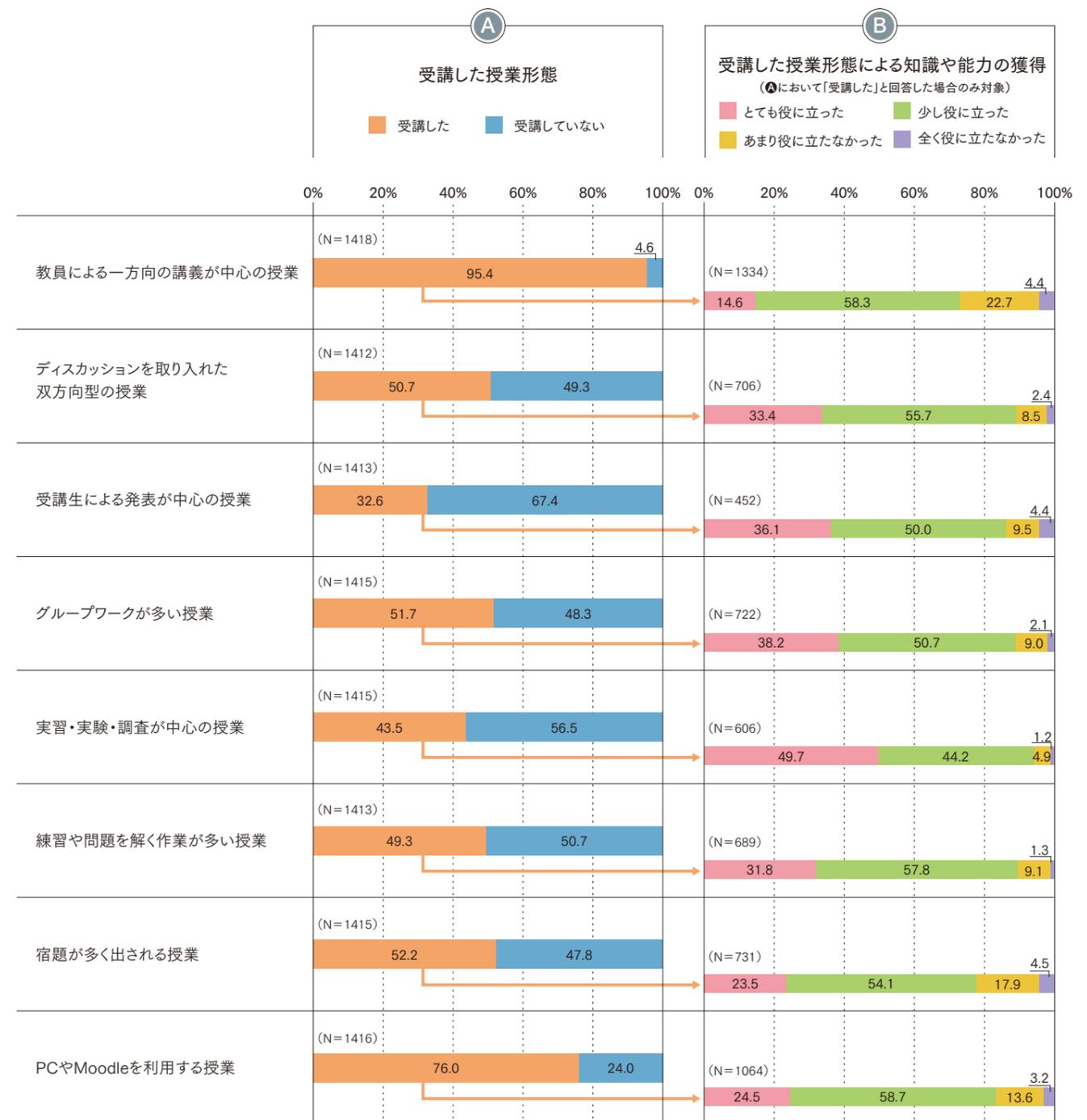


「授業内容について予習する」「先生に質問する」「自分でさらに学習する」の項目を能動的な学習態度とすると、鹿大生でこのような学習態度をとっている学生は15.3%～30.9%となお少数にとどまっている。一方、「ノートをとる」「資料をきちんと保管する」「宿題・課題を必ずこなす」の項目を積極的な学習態度とすると、67.9%～87.3%と、学生の中の多数を占める。この点に、現在の鹿大生の学習態度の現状がうかがえる。

能動的な学習態度であれ、積極的な学習態度であれ、いろいろな学習方法を実践した学生は、その習慣化が「十分に身についた」「少し身についた」と積極的に自己評価している。

問5

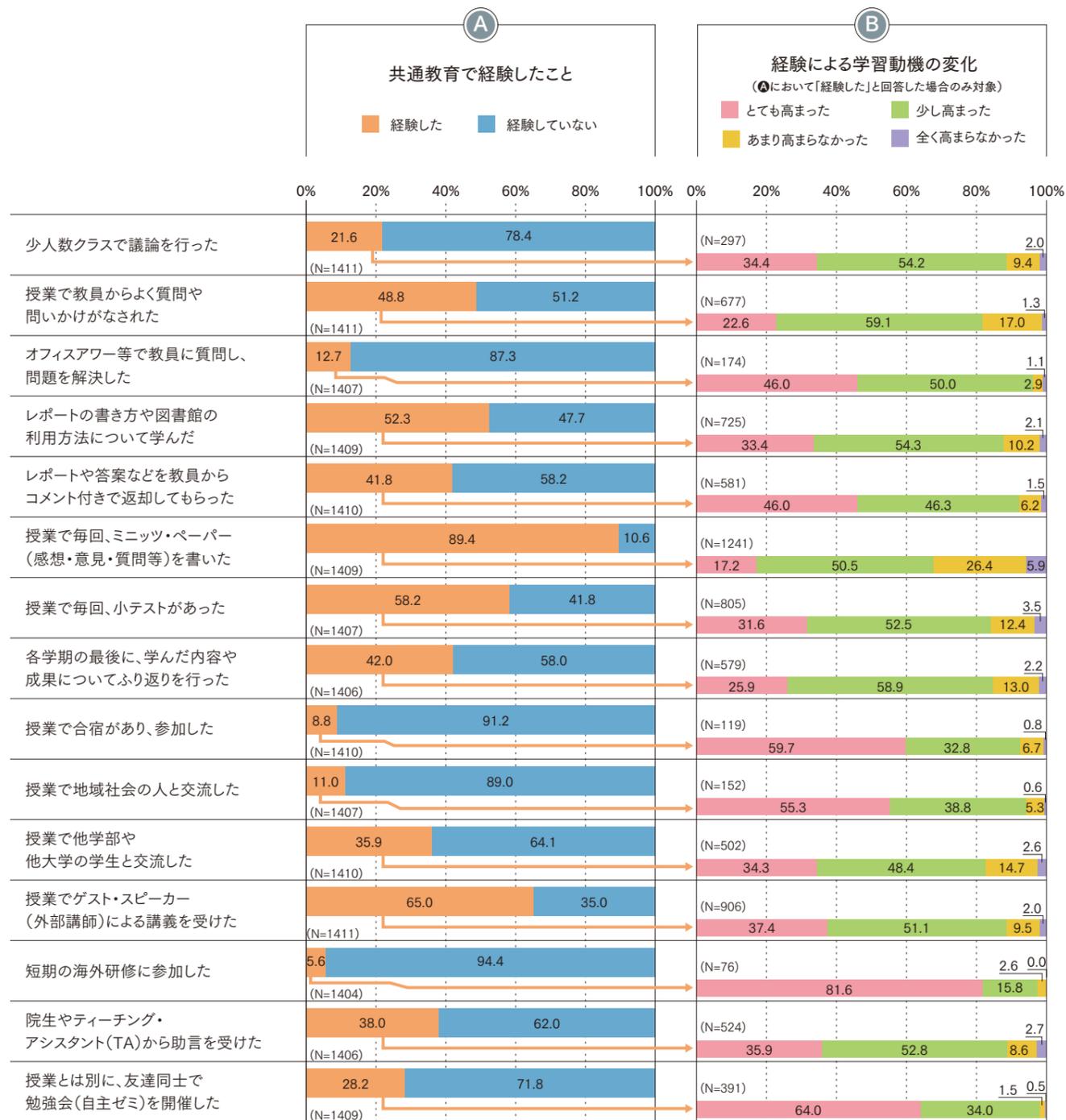
共通教育科目等において受講した授業形態



「ディスカッションを取り入れた双方向型の授業」から「宿題が多く出される授業」までの授業形態は学生にとっては負担は大きいものであると受け止められているせいか、「受講した」とする学生は32.6%～52.2%にとどまる。しかし、多彩な教育方法を取り入れた授業を受けたことによって知識や能力を獲得できたと自己評価する学生は多く、「とても役に立った」「少し役に立った」と評価する割合が高い。「一方向の講義」は27.1%の学生が「あまり役に立たなかった」「全く役に立たなかった」としている点がみられる。

問6

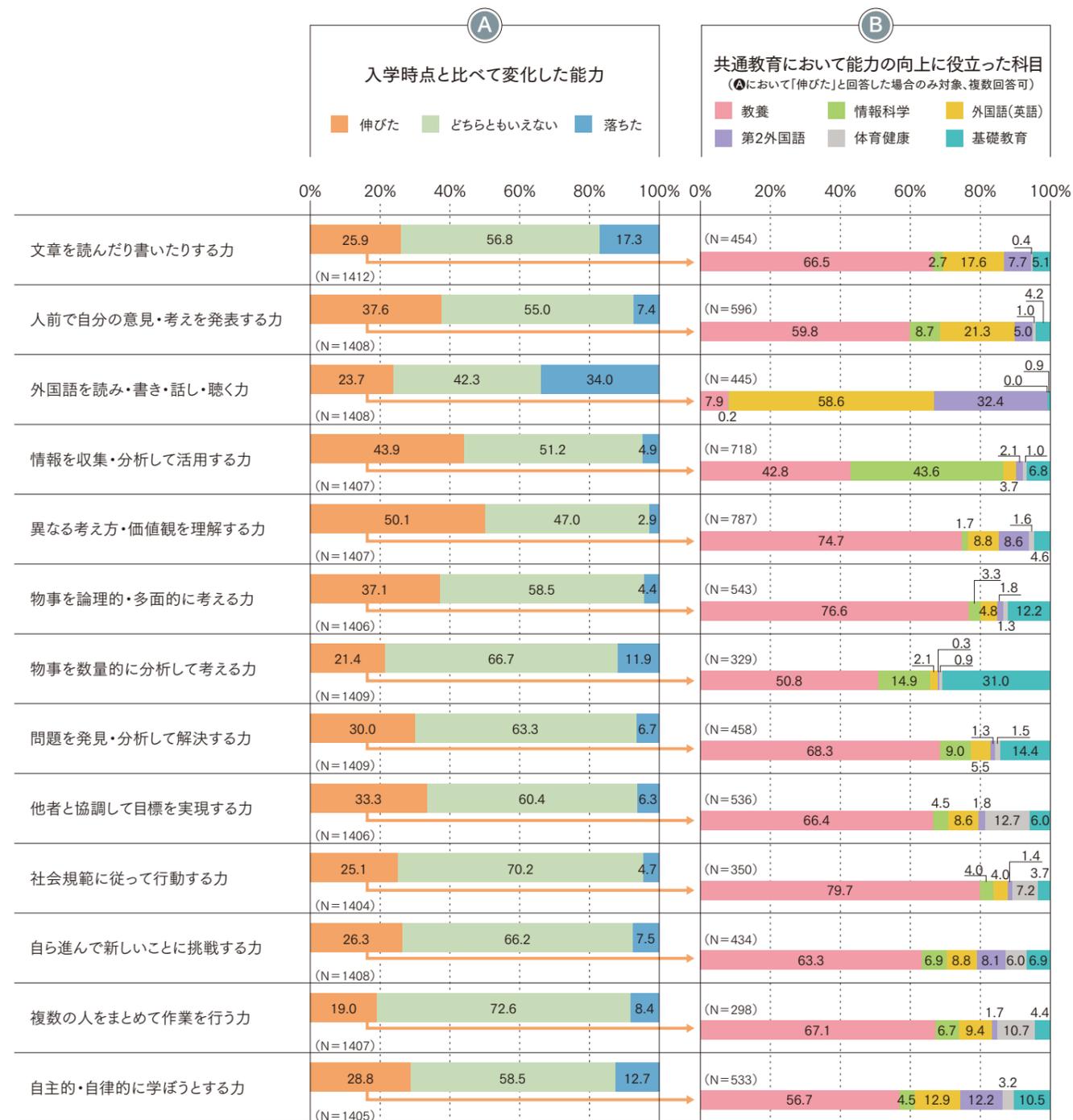
共通教育において経験したこと



上左欄にあげられている授業方法は、いずれも授業改善の一環としてなされているものであり、このような工夫された授業内容を共通教育で経験した学生はおおむね学習動機が高まったと評価している。とりわけ「短期の海外研修」「自主ゼミ」「オフィスアワーでの質問」「合宿」「地域交流」を経験した学生は、学習動機が高まったと積極的評価をしている。「ミニッツペーパー」は学習動機の高まりにつながっているとする学生も多い。さほど評価しない学生も32.3%存在するが、教員からコメントつきで返却すると学習動機がきわめて高まることうかがえるので、「ミニッツペーパー」はフィードバックと組み合わせることが重要であろう。

問7

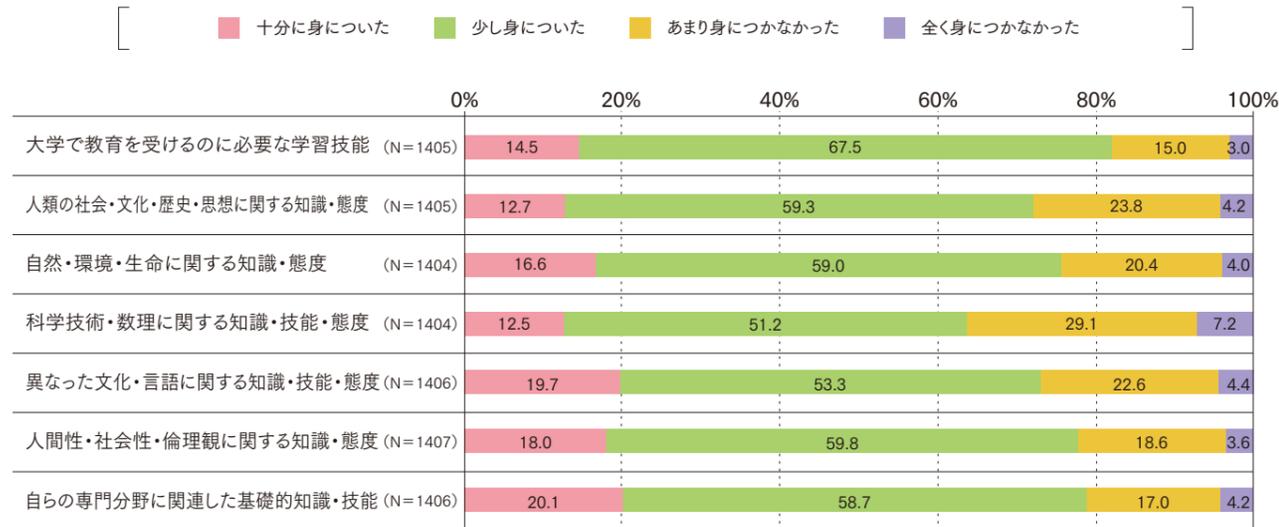
共通教育において入学時点と比べて変化したこと



「外国語を読み、書き、話し、聴く力」が「落ちた」と34.0%の学生が感じている。反対に「伸びた」と感じている能力は、「異なる考え方・価値観を理解する力」「情報を収集・分析して活用する力」である。前者については教養科目から、後者については情報科学科目から獲得したとしている。鹿児島大学では「進取の気風」を育むことを大学憲章で定めて、その育成に努めているが、「進取の精神」を表している「自ら進んで新しいことに挑戦する力」が伸びたとする学生は26.3%いた(その項目についての分析は10ページ参照)。

問 8

共通教育の授業をとおして 身についた知識・技能・態度

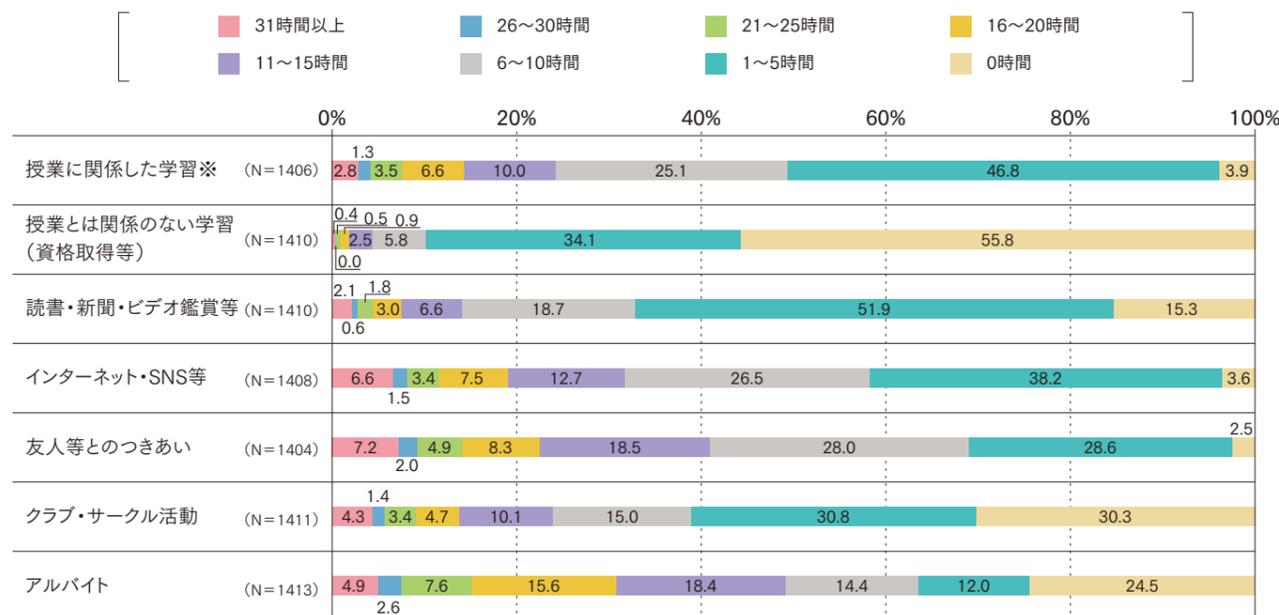


この欄に記載された知識・技能・態度については、おおむね「身についた」と受け止められている。「科学技術・数理」に関する知識等が「身につかなかった」とする割合が36.3%と最も高い。自らの専門分野に関連した基礎的知識・技能については「身についた」とする評価が高いことを考えると、文系学生に対する科学技術・数理教育の分かりにくさといった問題があるのかもしれない。

問 9

今学期(4期)中における各活動の 一週間あたりの平均時間

※「授業に関連した学習」には、学部での専門教育も含む。



新しい調査項目としてインターネット、SNS利用にける時間を調査した。その結果、まったく利用していない学生は3.6%にすぎず、ほとんどの学生が「友人等とのつきあい」と同じくらいの時間をつかっている。1週間16時間以上(1日2時間以上)ネット等につかっている学生が19.0%いる。反面、「読書・新聞」等を読むことに時間をつかっている学生は少なく、まったく読んでいない学生も15.3%いることがわかる。

問 10

鹿児島大学に対して

■ 強くそう思う ■ 少しそう思う
■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない



鹿児島大学に対する学生の満足度を表しているが、一番、評価が高いのは「クラブ・サークル活動の活発さ」であり、施設等や教職員の対応等にもある程度の好意的評価がみられるが、「相談できる体制」づくりは遅れていることがわかる。大学のイメージについて「鹿児島大学は開放的で活気がある」は3分の2程度が好意的評価をもっているが、「鹿児島大学は常に新しいことに挑戦している」とはみていない学生の割合が高い。

展開研究

「進取の精神」をもった学生を育てるために

鹿児島大学では「進取の気風」を育むことを全学の教育目標の1つとして掲げている。そこで、問7で「自ら進んで新しいことに挑戦する力」が伸びたと回答した学生(「進取の精神」をもった学生と想定した)が、他の質問にどのような回答をし、それが他の学生とどのような違いがあるのかを調査した。

その結果、このような「進取の精神」をもった学生には以下の傾向があることがわかった。

- (1)「鹿大生であることに誇りを感じている」比率が高く、参加した数は少数であるがボランティア活動への関心等も高い。反面、「自己の将来に対して不安がある」とする比率が低い。
- (2)「ディスカッションを取り入れた双方向型の授業」「少人数クラスでの議論」等の工夫された授業形態を受講した割合が高く、「とても役に立った」「役に立った」とする積極的な受け止めがみられる。
- (3)「共通教育の授業をとおして身についた知識・技能・態度」をみても、すべての項目で「十分に身についた」「身についた」と自己評価している割合が高く、鹿児島大学に対しての満足度も他の学生に比べて高い。
- (4)学生が、共通教育において一方向の講義型ばかりではなく、いろいろな工夫がなされた授業に接して、学習意欲を一層かきたてられて、実際に各種の授業形態に取り組み、授業に対する自己満足度も高く、「自ら進んで新しいことに挑戦する力」が伸びたと感じている。

こうした調査結果から、鹿児島大学としては、学生が主体的に授業に参加する工夫がなされた授業を増やすこと、双方向や議論などを含む授業の受講を勧めていくこと、主体的に授業に取り組ませることによって、学生自ら自分の能力が高まったという自信・自覚を強めていくこと、さらに海外留学、ボランティア活動への参加などを促していくこと等が、「進取の精神」をもった学生の育成につながっていくのではないだろうか。

3年間の調査結果のまとめ

2010年、2011年、2012年と3年間かけて、主に共通教育を受講している鹿児島大学の2年生を対象に学習実態・学習成果の調査を行いました。総じて、3年間で大きな変動はなく、3年間の調査結果から鹿大生の学習実態の主な特徴が浮かび上がりました。

» 基本事項

鹿児島大学に入学した学生は、高校での成績は「中の上」以上だった学生が過半数を超え、入学前の1日の学習時間も3時間以上が67%～69%を占めているが、学習時間が1時間未満の、学習習慣が十分に身につかないまま、大学に入学した学生も10%～12%いる。

» 日頃の行動

91%～92%の学生は授業へはきちんと出席している。クラブ・サークル活動に積極的に参加している学生は53%～56%、アルバイトに力をいれている学生は57%～58%である。ボランティア活動への参加は14%～15%と総じて少ない。

» 習慣・関心

社会の動きに関心があるとする学生は51%～57%であり積極的にとはいえず、新聞は16%～21%の学生しか読んでいない。読書も半数はさほどの関心をもっていない。自分の健康には留意していることがうかがえる。

» 在学中の抱負

教養と専門的知識を身につけたいと考えている学生が多い。その反面で、海外留学などに積極的に取り組んで国際感覚を身につけたいと考えている学生の割合は少ない。まじめに授業にとりくむが、対外的な積極性がやや足りないと思われる鹿大生の平均的な傾向がうかがえるのではない。

» 将来について

8割を超す学生が将来に対して不安をもっている。就職難等の社会的な事情が反映していると思われる。45%～48%の学生が自分の将来つきたい職業がまだはっきりと見据えられていない。

» 受講状況

外国語・基礎教育科目を除いては予習復習時間が1時間未満という割合が多く、教養科目、情報科学科目、体育・健康科目では授業外での学習が少ない傾向がある。外国語科目(英語・第2外国語)では半数は1時間以上学習し、毎日2時間を超えて学習している学生も少なからずいる。

» 学習の仕方

授業に積極的に関わった学生は、「身についた」とする自己評価度が高い。授業で出された課題は必ずこなし、授業で配布された資料等はきちんと保管し、授業中にノートをきちんととるなど、まじめに授業に参加していることがうかがえる。しかし、「教員に質問する」、「興味をもったところを自分でさらに学習する」といった、さらに積極的なかわりには至っていない傾向がうかがえる。

» 受講した授業形態

学生が主体的にかかわる「双方向型」「受講生による発表が中心」「グループワーク」「実習・実験・調査」などの授業を受けた学生は、「役に立った」と高く評価している。教員による一方向の講義型の授業についても72%～75%の学生は「役に立った」と感じており、それほど評価は低くない。しかし、25%～28%の学生が一方向講義型授業に消極的な評価しか与えていない点も注目を要する。

» 入学後の能力の変化

「外国語を読み、書き、話し、聴く力」が落ちたと感じている学生が3分の1程度いることがこの3年間の調査を通じて明らかになった。教養科目は「異なる考え方・価値観を理解する力」「物事を論理的・多面的に考える力」「社会規範に従って行動する力」等の育成・向上に役立っていることがわかる。

» 学生の一週間の活動時間

授業に関係した学習時間はさほど多くなく、読書等にかけている時間も少ない学生が多い。アルバイトは1日3時間を超えている学生が15%～18%いる。インターネット、SNSを利用していない学生はほとんどなく、かける時間もかなり多い。

» 鹿児島大学について

施設について図書館や情報端末室をはじめ施設設備に対する満足度は高い。教職員の姿勢に対してもおおむね評価は高い。しかし、学生の相談体制の整備については、まだ広報上知られていないせいか、満足度が低い。

学生のみなさんへの提案

自分自身を振りかえってみて、この調査結果をどう考えますか？

学習があまり自主的・積極的ではないこと、予習復習時間が不足気味であることなどが指摘されていますが、鹿児島大学ではみなさんのために、さまざまな学習支援を行っています。

- オフィスアワーなどを利用して、教員に質問してみる。授業後でもいいです。
- ボランティア支援センターに登録して、ボランティアに参加する。
- 図書館に行って、本や新聞をたくさん読む。
- 野外活動や地域との交流といった教室外の活動のある授業に参加してみる。
- 短期海外研修をふくむ授業に参加してみる(費用支援制度もあります)。
- 鹿児島大学以外の人々との交流を持つ。

今の自分自身を少し変えるために、
これからちょっとだけ積極的に毎日の過ごし方を変えてみませんか。

